

イラスト

「暗記」をせずに、解剖学が
身に付く「最強」テキスト!

顎顔面解剖学

【編著】

松村讓兒

杏林大学医学部解剖学教室 教授

島田和幸

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科神経病学講座
人体構造解剖学分野 教授 (鹿児島大学歯学部長)

- ISBN978-4-498-00040-7 • B5判260頁
- 定価4,410円(税込)



大好評の「イラスト解剖学」の待望の姉妹編!

歯科学生が限られた時間の中で要領よく頭頸部の解剖学を学べるよう、絶妙のイラストを駆使してわかりやすく解説した新しいテキスト。局所解剖学の知識を歯科臨床全体の一部にとらえ、さらに全身的な系統解剖学との関連性を常に念頭に置いて記載するように構成。

医学書としてかつてないほどの脱力系(でも正確!)なイラスト

各項は1頁 or 見開きが基本、どこからでも読める!

さりげなくちりばめられた関連知識やトリビアが多数!

簡潔かつ不足のない解説は、重要語を強調表示

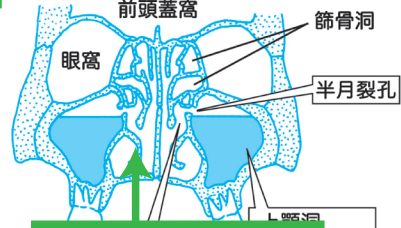
・内容見本・

鼻腔粘膜から続く上顎洞の粘膜は皮下の粘膜固有層、骨膜とセットでシュナイダー膜という。う私だ。

上顎洞はハイモア洞ともいうよ



Conrad Victor Schneider (1610~1680)



デフォルメされ、シンプルかつ分かり易い解剖図

ヒトの副鼻腔は、英国の Highmore (1613~1685) が初めて書物に記載し、彼の名前をハイモア洞とよばれる。副鼻腔の内面は、気道のほかの部位と同様で、鼻腔粘膜から連続